

中学校 国語科学習指導案

東広島市立高屋中学校 教諭 三好 由香

- 1 学年 第2学年
- 2 単元名 「平家物語」の魅力を考える
- 3 教材 「敦盛の最期」(『平家物語』)

4 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の第2学年の「ア 伝統的な言語文化に関する事項(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。」及び「C読むこと」の「イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」、「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。」の能力の育成をねらいとしている。

「平家物語」は、琵琶法師によって語られた平曲であり、七五調を交えた和漢混交文で綴られている。平家の栄華と滅亡を描いた軍記物語で、描かれているものは、戦いの様子ばかりではなく、貴族から武士の世界へ移る時代の人々の状況や生き方、苦悩であり、人の生き方について深く考えさせる。「敦盛の最期」は、武士として武勲をあげるために戦いを挑む姿や、名を汚すまいと潔く死を選ぶ姿、人の親として若者の死を悲しむ姿、戦国に生まれた武士の運命の過酷さに苦しむ姿など、登場人物の様々な姿が描かれている。これらのことから、本単元のねらいに適した教材であると考えられる。

(2) 生徒観

生徒は、1年時に「竹取物語」を学習しており、短歌の学習において、「ただよふ」や「ゆふべ」等の歴史的仮名遣いは全員が正しくとらえることができた。実施した事前アンケートでは、「古典の学習は好きですか。」という問いに、肯定的な回答をした生徒は29%で、「昔の人の考えや生活と現代との違いが分かり、楽しいから。」という意見がある一方、否定的な回答をした生徒は71%で、「言葉が難しく、分からないから。」という意見が目立った。古典の魅力は、約半数の生徒が感じており、「昔の言葉や考え方が分かるから。」という意見があった。「古典は難しいです。」と答えた生徒は89%で、これらの結果から、現代語とは異なる言葉への抵抗が大きく、古典は難解なものにとらえている生徒が多く、古典に親しむ態度の育成には至っていないことが分かる。

(3) 指導観

生徒観で述べたとおり、古典を難解なものにとらえている生徒が多いことから、まず古典を音読させることで、独特のリズムが醸し出す心地よさを味わわせ、古典作品に親しませる。

次に、社会科での既習事項や様々な資料を利用して調べ学習を取り入れる。様々な資料を手にして読んだり考えたりする機会を設けることで、古典作品に対する興味をもつことができる。

その後、調べ学習で得た知識や文章から読み取ったことを踏まえて、4人グループや学級で交流する活動を取り入れる。他の生徒と意見を交流することで、登場人物の言動の意味や作品全体に表れたものの見方や考え方を、多様な視点で考えることができる。そうすることで、時代が変わっても変わらない普遍的な日本人の美意識や感性というものに気付かせるきっかけになると考える。

5 単元の目標

- 古典に対する興味や関心をもっている。【国語への関心・意欲・態度】
- 登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることができる。【C読むこと イ】
- 作品に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。【C読むこと エ】
- 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむことができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 音読を通して七五調のリズムの良さや和漢混交文の歯切れの良さを味わっている。 古典作品の全体像や時代背景について調べ、まとめようとしている。 古典作品について、積極的に他者と意見交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解している。 登場人物の立場になって生き方や考え方を想像し、現代と関連付けて考えている。 登場人物の生き方と自分の生き方を照らし合わせて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的仮名遣いやセリフに留意しながら音読している。 登場人物の心情を想像しながら朗読している。

7 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習内容	評価			評価規準	評価方法
			関	読	言		
一	1・2	<ul style="list-style-type: none"> ○「平家物語」を声に出して読み、「平家物語」の魅力に触れる。 単元の目標を知る。 「平家物語」の冒頭部分を音読・暗唱し、七五調のリズムの良さや和漢混交文の歯切れの良さを味わう。 「敦盛の最期」を歴史的仮名遣いやセリフに留意しながら音読する。 	◎		○	<ul style="list-style-type: none"> 音読を通して七五調のリズムの良さや和漢混交文の歯切れの良さを味わっている。(国語への関心・意欲・態度) 歴史的仮名遣いやセリフに留意しながら音読している。(言語についての知識・理解・技能) 	観察 暗唱 自己評価表
二	3・4	<ul style="list-style-type: none"> ○「平家物語」について調べ、「平家物語」の魅力を探る。 班ごとに資料の収集を行い、調べたことをまとめる。 まとめた内容を、学級で紹介し合う。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 古典作品の全体像や時代背景について調べ、まとめようとしている。(国語への関心・意欲・態度) 	観察 ワークシート 自己評価表
三	5・6・7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○「平家物語」の登場人物の言動の意味などを考え、「平家物語」の魅力を考える。 直実や敦盛の言動の意味などを考え、内容を理解する。 直実や敦盛の心情を想像しながら朗読する。 直実や敦盛の立場になって生き方や考え方を想像し、現代と関連付けて考える。(本時) 	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解している。(読む能力) 登場人物の心情を想像しながら朗読している。(言語についての知識・理解・技能) 古典作品について、積極的に他者と意見交流している。(国語への関心・意欲・態度) 登場人物の立場になって生き方や考え方を想像し、現代と関連付けて考えている。(読む能力) 	観察 ワークシート 自己評価表
四	8	<ul style="list-style-type: none"> ○「平家物語」の登場人物と自分を比較し、「平家物語」の魅力を考える。 敦盛や直実の生き方や考え方と自分を照らし合わせ、作文を書く。 			○	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の生き方と自分の生き方を照らし合わせて考えている。(読む能力) 	観察 作文 自己評価表

8 本時の学習

(1) 本時の目標

- 登場人物の立場になって生き方や考え方を想像し、現代と関連付けて考えることができる。

(2) 本時の評価規準

- 古典作品について、積極的に他者と意見交流している。【国語への関心・意欲・態度】
- 登場人物の立場になって生き方や考え方を想像し、現代と関連付けて考えている。【読む能力】

(3) 本時の学習展開

	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への手だて)	評価規準と評価方法
導入	1 「平家物語」の冒頭を全員で暗唱する。 2 本時の目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">登場人物の立場になって生き方や考え方を想像し、現代と比べよう。</div>	◇ 前時までにとらえている七五調のリズムの良さや和漢混交文の歯切れの良さを意識させる。	
展開	3 敦盛、直実、土肥・梶原の立場になって生き方や考え方について考え、班・学級で交流する。 ・考えをカードに記入する。 ・班で考えを伝え合う。 ・学級で紹介する。 4 現代と変わらぬ価値観について考え、班・学級で交流する。 ・考えをカードに記入する。 ・班で考えを伝え合う。 ・学級で紹介する。	◇ 前時を想起し、とらえた言動の意味だけではなく、「平家物語」について調べたことも参考にして考え、理由も説明できるよう指示する。 ◆ 前時を想起し、とらえた言動の意味から分かる生き方や考え方について考えるよう促す。 ◇ 交流の中で、それぞれの考えを整理し、更に考えを発展させることができるよう指示する。 ◇ 登場人物と生徒自身の考え方を比較して整理しながら、現代と変わらぬ価値観について考えるよう指示する。 ◆ 具体的な状況を想起して考えるよう促す。	・ 古典作品について、積極的に他者と意見交流している。(国語への関心・意欲・態度)【観察・自己評価】 ・ 登場人物の立場になって生き方や考え方を想像し、現代と関連付けて考えている。(読む能力)【観察・ワークシート・自己評価】
まとめ	5 自己評価をする。 6 次時の予告をする。		